

【刊夕】日二十月八

常磐每日新聞

第一版 第二版 第三版 第四版 第五版 第六版 第七版 第八版 第九版 第十版

（日八月一十年二十正大 可認物便郵種三第）

萬寶山事件と

一考察 (三)

三橋康豊

本事件が和平的協調に至るを得ずして権力行使により保護するの止むなきに至りたる事情を大観するに、元來支那側の頑迷固陋度し難きに在りたるは明々白々の事實なるも、頑迷者流を向ふに回わし純理論と説くもヌカにクギの観あるは蓋し當然であらう。しかし「人見て法説け」で彼等にも一片の理性はもち合せがあるであらう事を速急に運ぶの要あるとき理屈ぬきでテキパキ仕事して行くのが常道である。ところが再三の交渉、暴動、保護等の経緯を連ねた現状は如何に、契約の六分一は降雨を利用して播種し得たるも他は漸く今日に於て播種するものにしてたとへ實施するも五分作にあらざるや、殆ど最後の手段を採りて尙如斯、本事件の擁護が過根となり在滿鮮人一百万人がより以上の壓迫をうくるは火を見るよりも明かにして將來起るべき此等の事象に對して直

に権力を行使し武力を用ゐるとき益々對日感情悪化し遂に日支經濟界の恐慌を來たし唯一の産業資料たる滿蒙の富源を失ふに至るなきかを憂ふるのである。幸ひに將來ことなきを祈る。帝國が特種權益獲得後二十年有六年なるに在留邦人の發展遅々として進まず、堂々たる世界三列強の一たる地位にありながら友邦たる支那の信頼を得ず悦服せられざる原因奈邊にありや、爲政治家の責任は勿論我國民の自覺と在留民の態度が真剣味を欠き、眞に滿蒙の開発は日本帝國の爲すべき責任ある事業であることの所信がないからではあるまいか日本は將來滿洲を捨て、は

たつせがないとおもふ、最近喧しき鐵道問題は如何に支那の計劃による滿洲幹線は胡盧島を起点とする「ハバロフスク」―「グレンジエスチエンスク」の二線であつて之れが完成した曉に於て我經營になる南滿線の如きは一小線たるの觀を呈すべきかゝる重大問題すら狡猾なる支那側の回避により交渉の端緒も得られざるに非らずや、

（續）



わたしの波

夏月 映泉

眞赤な眞赤な太陽よ 碧波で踊る

水明吟社夏行 (四)

吉田 青柳子

(草いされ 夜の秋)

夏行の千社詣でや草いされ 玉石を運ぶ河岸や草いされ 追かけし炭つけ馬や草いされ 笹笛の何處ともなし夜の秋 火葬場に柩見送る夜半の秋

風を孕んで白帆が走る 青い涼しい波の上を 見えて隠れて隠れて見えて 海の坊主よ若者達よ 波を縫ふてる黒あたま 波は柔しいおばさんよ 追っかけ追っかけ来る波よ ザアト咲いた波の花 足を洗ふて又行つた わたしの波は青いのよ

（一九三二、八）

御用命は？

御用命は？

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

の物刷印

て總は命用御

會株式刷印日每警常

番〇三六話電

■ 産名城磐 ■

魚問屋

最優最大日本生命平代理店

志賀盛榮

平四丁目電二三番

△ 配達敏速 ▽

運動具と服装!!!

榮冠輝く品質と

価格のフラインプレー!

平驛前 マルカ運動具部

電話三十二番

五スや電熱より經濟で便利な變性 アルコールを燃料とする尖端的の特許

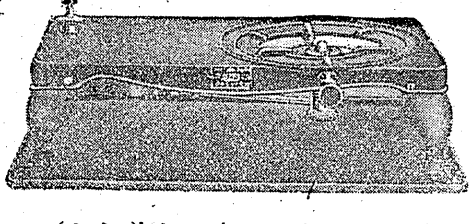
自家瓦斯發生器生る

▽本器の使命

▽國家的燃料の革命

▽家庭經濟の合理化

▽特價金八圓五拾錢



(しな差大と油石段値ルーコルア)

本器の特長

一、便利重寶IIガス、電氣のやうに管やコードを要せず、土器鐵器の様に重ならず、石油厨爐の様に容積大ならず、持運び自由で體裁良好し

二、經濟的II「アルコール」を一旦「ガス」化して燃える爲め燃焼物の容積を膨大し火力熱量は類なく強大でありますから燃料が少料で安價に煮炊き出来ます時間は瓦斯より早い。

◎飯一升五合炊くに要する各種燃料比較實驗表 (昭和六年四月釜屋商店調)

四季の平均(アルミニウム製並二升釜使用)

一、一般家庭用は勿論左記に利用下されば最も便利と思ひます。旅館、料理業、うどん屋、外一般用工業用、病院、船舶(海上生活者)野今回御便宜の爲にねん料アルコールのハカリ賣を初めました

精々御利用を願ひます

◎一升以上 一升ニ付 四十錢

釜屋商店

平町五丁目電話九番九九番

愛讀者への奉仕

川崎小鳥著

満州土産談

四六版二百數十頁

月極讀者に無代進呈

本紙連載の川崎本社長執筆「満州土産談」は前後百回に亘り、満州を鋭利な観察眼に依つて、あらゆる方面より、縦横に解剖し、軽妙な筆致は、よく其の實相を捉え來つて餘す處なく、眼前に展開しました。本社は各方面の求望に鑑み、茲に多大な犠牲を拂つて、單行本となし日頃の御後援に酬えん爲め、讀者諸君に、洩れなく無代進呈する事となり、目下印刷中であります。今や日支兩國間の交渉往來益々緊密なるに當り、満州の近情を明らかに知る事は、轉じて我が國運の歸趨を下すに足るべく、従つて、國民必讀の文字は此の好著の全幅に飛躍して居ります。御期待を願ふと同時に本社の微衷を諒せられよ!

打續く炎暑に

平の水源濁る

使用水量を近く警告
打水等を厳禁する

平町水道部では打續く炎暑に水源地の好間村好間川が非常に濁水して來たので平町民の使用水量について近く警告を發し打水夜間の放水等を厳禁することとなつた

漁港問題批判

石城郡青年同盟會では十四日午

十五日全工事が終了するので縣土木課よりは谷村技手が出張工事の検査を行ふ由である

トマトの栽培奨励

石城郡農試分場ではトマト二十種を試験的に栽培し昨今收穫期に入り平町その他各市場に出品してゐる相場は一貫匁五十五錢位一反歩の收量は七百匁二百五十匁乃至三百匁に達する見込みで石城郡下にはベストオポソール種が適してゐるので極力これが奨励をなすことになつた

神宮競技出場の資格獲得を目標に

石城在郷軍人聯合分會が
來月六日に豫選會

石城郡在郷軍人聯合分會では福島市に開催される第四回縣下武術大會へ送る銃劍術、軍刀術、射撃等の選手を決定する爲め九月六日午前八時半より平商業學校々庭に於いて豫選會を催すが同會の優勝者は明治神宮競技出場資格を得るので各町村の在郷軍人は今から大いに期待しつゝ練習して居る尙ほ射撃會場は既報湯本町入山青葉山麓の土地が夫れ迄に決定を見ない場合は在隊中の射撃成績を参考とする由

玉川村會

石城郡玉川村にては本日午前九時から村會を開いた

今日の話

昨年十月の國勢調査によると總人口の内男女の割合は女百に對し男一〇一、〇で男の方が幾分多い。然るに之を地方別にすると面白いことは、男の多い府縣一六に對し、女の多い縣は三〇である。其の内沖繩、長野の二縣は他縣に比較して特に女が多い。沖繩では女百に對し男八、九五。長野は九四、一である。
(女の多い縣)岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、愛知、三重、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、徳島、愛媛、高知、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄、大分
(男の多い縣)東京、大阪、京都、青森、神奈川、福岡、長崎、香川、廣島、山口、兵庫、岐阜、静岡、岡、宮城、秋田、宮崎。

平町物價

最近平町役場にて調査した物價左記の如くである

白米 中同	一九、〇〇	線綿 同	二八、〇〇
下同	一八、〇〇	晒木綿 一反	三五、〇〇
大麥 同	一一、〇〇	麻 百斤	五六、〇〇
小麥 同	九、二〇	洋釘 同	七、五〇
大豆 同	八、六〇	松角材(二間物)	一本 四、〇〇
小豆 同	九、二〇	杉 同	同 五、三三
清酒 同	九、〇〇	樺 同	同 三、〇〇
醬油 同	三、五〇	椴 同	同 三、五〇
味噌 一貫目	六、〇〇	松六分板一坪	九、〇〇
茶 百斤	四二、〇〇	杉四分板同	七、〇〇
鯉節 一貫目	五、五〇	杉同	同 九、〇〇
牛肉 百斤	五二、〇〇	松丸太 一本	四五、〇〇
鶏卵 百個	二、五〇	杉丸太 同	四、〇〇
白砂糖百斤	一八、六〇	屋根板 一坪	七、〇〇
赤砂糖 同	一四、五〇	石油(二罐)二箱	四、四〇
		石炭 一噸	一〇、五〇
		薪 十貫目	三五、〇〇
		炭 同	一、七〇
		美濃紙(千帖)一束	八、〇〇
		半紙 同	三、六〇
		大豆粕 一枚	一、二〇
		菜種油粕一貫目	三、〇〇
		過燐酸七貫目	一、一〇
		練粕十貫目	三、三五
		鱈和 同	二、五〇

平町人事

出生 高橋武氏三女浩子

婚姻 △立町九一 正木貞衛(二九)石城郡 渡邊村大字上釜戸字西仲田 大平 三三(二二)

左記物件入札公賣ニ付ス希望者ハ左記御含メノ上御申出ヲ乞フ

- 但シ入札ノ金額カ當方ノ見積額ヨリ甚タシク低額ナル場合ハ落札ヲ拒ムコトアルベシ
- 一、應舉虎繪掛物 一軸 外掛物數十點
- 一、六枚折金躰風 一双
- 一、金 盃 一個
- 一、銀ノカッブ 三個 外二點
- 一、入札ノ日時 昭和六年八月十六日 午前九時
- 一、入札ノ場所 平町字南町六十九番地 株式會社磐越銀行内
- 一、落札代金支拂方法 落札物件引替即時振込ノコト

磐越銀行破産管財人 辯護士 大嶺 庫 同 増田 梅藏

勿驚破天荒廉賣

記念新坑着炭 磐城炭界... 優良塊炭 正味拾貫匁入 一俵金貳拾五錢

品質良ク 火力強ク 灰分少ク 配達します

水野石炭商店

東京コトクス・販賣 平郵便局通り 電話二九九番

山林競賣の入札に

三百名以上も押掛く

此の素晴らしい景氣の反面に 不況切抜けの苦肉策が潜む

昨日の平營林署

平營林署にては昨日川前、永戸、上小川、三坂等の各山林立木を競賣に附したが時節柄全部の入札者あるや否やを危ぶまれて居た處豫想に反して例年百名内外の入札者が其の三倍の三百名以上も押掛け総額三萬八千圓を以つて残る限なく卅名に落札した、此の素晴らしい景氣を見たのは昨年の木炭需要期に品不足の爲め

表 犯人逮捕 彰 人命救助

石城郡内郷村磐城炭礦會社労働係伊藤吉三郎、同會社坑夫太田聖一の兩氏は犯人逮捕で、また石城郡山田村消防手大平惣吉氏は人命救助で十日いづれも知事から表彰された

満洲みやげの童話を

本社長東京から放送

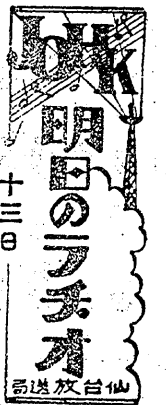
興味深き支那童話を純日本式に翻案して

川崎本社長は、来る廿八日(舊十五日)午後六時より東京放送局より童話のラヂオ放送を依頼されて「満洲土産」の中の「鬼」と題し先般満洲旅行の際蒐集した支那童話中最も興味多き題材の

好漁打續く

磐城丸の漁況

小名濱町水産試験場磐城丸は既に十二航海を重ね今回は磐城丸南四分一南百九十二漕の沖合第五漁場に



明日のラヂオ

今夜は北西の風、晴れたり曇つたり、明日は南西の風、晴れに、立の氣味

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 連続童話劇「昭和太郎君 高速度日本一周記」(廣島の巻) F.K. コドモサークル
- 後六、三〇 東西文學の比較「佛國近代小説露西亞小説と日本の翻譯小説」
- (四) 馬場孤蝶
- 後七、〇〇 全國ニュース 官廳ニュースを含む 河北新報社ニュース 氣象通報 告知事項 番組預告 後七、三〇 野球風景

明日の部

- 前六、〇〇 ラヂオ体操
- 前六、三〇 夏期英語講義
- 「座中等、科第二講の二」 長澤英一郎
- 前七、五〇 運動競技 第

- 十七回全國中等學校優勝野球大會入場式狀況並試合狀況(甲子園より中継)
- 前九、〇〇 氣象通報
- 前九、一〇 料理献立「甘酒の作り方」二種 石竜たか 日用品値段
- 前一〇、三〇 夏期講習「兒童舞踊」(六)花柳珠實 實演 濱田多美子
- 前一一、五五 經濟市況
- 正午 時報
- 後〇、〇五 琵琶「湖水乗切」雨宮錦峰
- 後〇、四〇 全國ニュース 河北新報社ニュース 氣象通報 告知事項
- 後三、四〇 氣象通報
- 後四、〇〇 全國ニュース 河北新報社ニュース
- 後六、〇〇(子供の時間)

郡赤井村第一小學校では十四日午前八時より同小學校講堂に於いて同窓會を開催し余興として神田伯洲氏の講談及び卒業生の飛入り演藝等を行ふと

無届け女給

平署でお目玉

平町南町カフエー蝶々の女給四倉町仲生れ松屋シキ(七)及び大野村生れ高田キヨ(七)鈴木ナミ(七)の三名は平署に無届け女給をした爲めそれら係官にお目玉を頂戴したが此の外にも無届け女給が多数の模様なので近く平署では此等鑑札を持たぬ女給と其の屋主をどしどし呼び出して取調る筈である

遊客が逃走

屋根傳ひに

石城郡好間村上好間飲食店高木ナヲ方へ八日午後十時

頃登樓した同村中好間石炭販賣人小森吉之助(三)同藤田政一(三)の兩名は夜半十二時頃迄に五圓餘の散財をしたが家人の隙を見て裏屋根傳ひに逃走行衛を晦した

斜坑の入口に寝る

前科三犯の曲者

石城郡内郷村字宮窪貨商大和田登(七)方へ九日夜十一時何者か忍入り懐中時計及び現金十五圓在中の手提金庫を窃取逃走したが届出により平署では探査中昨十一日夜九時頃平署員が同村字宮高坂坑附近を密行中斜坑入口で一名の若者が寝て居るのを発見不審に思ひ取調べた處山形縣東村山郡山邊村生れ住所不定、村山常次(三)と稱し最初は涼んで居たと云ひ張つたが遂に前記の犯行を自白した、同人は前科三犯の曲者で六月福島刑務所を出た許りの男で餘

ので平署に告訴さる 病を苦しむ 石城郡大野村戸田農山田又右衛門(四)は十日朝九時病氣を苦しめて溢死した

痛い足を引摺

濱街道を徒歩

群馬縣利根郡水上村宇土合岡本兼吉(五)は五月頃相馬郡中村町で土工を働いて居たが兩足の神經痛の爲仕事にもあり付けず手當すら出来ぬので茨城縣西茨城郡

文藝募集

安戸村字友部で自動車の運轉手をして居る岩田三郎の妻ウメが實妹に當るので其處で身の振り方を着け様と神經痛の足を引ずりながら濱街道を徒歩で本日前十時半頃平町役場へ來り旅費の貸與を願出た

物騒な包み

爆薬や雷管

落し主調査

石城郡内郷村大字宮窪無職光造妻鈴木たい(七)は同家の

小説 七五郎

(九)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

破産 (2)
半兵衛と源之助とのなか
にこんな縄のあつた時に
は、千代子と繼母の郁子と
の間柄も兎角しつくりとい
かなくなつて、美しい彼
女の影に黒ひ呪の蛇がつき
まといつてゐた。

千代子はそれがために人
なき木蔭に嘔り泣きの遺瀧
ない思ひを絶えずさせられ
てゐた。
聽て恐ろしい時が見舞つ
て來た、世界大戦の黒雲か
ら飛び出した不景氣の尖鎌
は稻妻のやうに閃ひてあら
ゆる資本金をばた／＼と薙
倒した。

十文字の一家としてもそ
の數に洩れなかつた、彼の
手で經營されてゐる會社の
幾つかは缺損つゞきの苦し
い瀬戸に落ちて、今更の手
仕舞も樂ほどの利目がなく
遺線で借り込んだ負債は三
百萬、債権者からは猛烈な
壓力が加つた、そして毎日
のやうにそのごた／＼が續
いた、江東俱樂部の演藝會
から歸つて來た千代子がち
やうど今自動車から降りか
けた途端だつた。
玄關口からばら／＼と躍
り出して來た二三人の見慣
れない男が、地上に降り



は色のボケかゝつた背廣を
つけた貧弱な身体が矢庭に
木村に打突つて來たが、苦
もなく突き飛ばされてひよ
ろりとなるのを後の方から
支えたもう一人の男が、入
替つて木村の方へつか／＼
と寄つた。
「おい、汝はこの家の使用
人だらう、この車は主人の
所有だらう」
「そんなことは聞かなくな
つて解つてらア、使用人な
ら何うしたつてんだ」
木村はこふ答へてからそ
の男を見ると、髑髏の凄

矢庭にその男の横面をほか
りと撲りつけた。
「やい、何をしやがるんだ
フザゲた所爲をするぞ承知
しねえぞ、何でえ、手前た
ちは一
「野郎、なぐりやがつたな
無禮な奴だ、さ警官に引渡
すから此方へ來いッ」
木村に横面を殴られた男

紋を張りつけた羽織の裾を
わざと腰までたくし上げて
汚点だらけのセルの袴をつ
けてデブツた腹を突出して
肩を怒らした所は、どうや
ら柔道四段だと吹きたさう
な身構へだつた。
「ちや言つて聞かせる、我
輩たちはな、こゝろに金を
貸してあるんぢや、汝の主

人に貸金があるんぢやよ」
木村を下目にかけて傲然と
山羊髯をそじらした。
「何をツ、笑はしちやいけ
ねえ、金を貸すつて柄かい
おめえたちは……しよつち
う酒屋を泣かせてゐるくせ
に、大きなことを言ふない
ツ」
木村はせゝら笑つた、背廣
の方が口惜しがつてわくわ
くしてゐるのを髑髏が抑へ
て

業開

御試食を
是非一度
戸江風味

安兵衛
通郵便局

四九二(呼)話電

支那小料理
節小料理
理料小節支

出前
迅速

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

度量衡計量器吸入
用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

外科

X光線科
性病科
外科科

入院隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋
合名會社

電話 (營業部一〇番)
(醸造工場二七番)

梅毒 淋病

淋病 皮膚病 婦人病
腸胃病
門專
十二指
腸虫病
院醫科 腸胃病
七〇一話電
村松
町南平

看護婦急派
の求めに應
じます

平看護婦會
電話三〇七番

時計眼鏡
トキワヤ
平一・電三三九